

全道に動物愛護の輪を広げる

札幌市 北海Doぶつnet.

札幌市中央区にある保護施設型猫カフェ「ツキネコカフェ」の2階では、野良猫や飼育放棄など様々な理由で保護された多くの猫たちが暮らしている。このカフェのオーナーの吉井美穂子さんが、今回紹介する動物愛護団体「北海Doぶつnet.」の代表を務める。吉井さんは猫の保護活動などを行う「NPO法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道」の代表理事も務め、現在は、「ツキネコカフェ」と共に、保護型猫カフェ「ニャイダーハウス」も運営している。

北海Doぶつnet. は、北海道を拠点に犬、猫を保護・譲渡する動物愛護団体や学生サークル、ボランティアグループが集まり、1つの団体では成し遂げられない案件を協同することで解決しようと2012年に結成。「人と動物との共生を目指す」をテーマに、譲渡会、チャリティーグッズの作成・販売などを通じて「適正飼育」などの動物愛護の啓蒙や活動の周知を図っている。

加盟団体は「NPO法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道」をはじめ、「犬のM基金」、「ニャン友ねっとわーく北海道」、「NPO法人猫たちを守る十勝Wishの会」、「酪農学園大学幸せなしっぽ」。メンバーは200人ほどだ。

■ 行政との連携イベントも活発

これまで道内各地で様々な譲渡会や犬のしつけ教室、獣医師を招いた講演会など様々なイベントを開催してきた。

北海道大学のサークルと共に開催したイベント「わんにゃんかふえ」では、同大学構内で、犬の譲渡会や子猫の触れ合い、オリジナルグッズ販売・募金を行い、カフェの収益の一部は活動資金にあてられた。



グッズ販売の売上げは保護活動にあてられる

石狩市役所前広場で開催された「わんにゃんフェスタ@石狩」では、保護犬・猫の譲渡会をはじめ、しつけ教室を開いたほか、熊本地震の募金をし、被災動物の救済にあたる団体へ寄付を行った。さらに「わんにゃんクラフトマーケット」は札幌駅前通地下広場で行い、チャリティーグッズ販売、パネル展示のほか、この会場でも熊本

地震の募金活動を行った。

4年前からは天売島で捕獲された猫の譲渡会も行っている。天売島には200~300頭の野良猫が生息しており、海鳥を補食するなど生態系に影響を及ぼしているため、環境省と羽幌町が、北海Dobutsu net.などの各関係機関と連携して猫の捕獲作業などの対策に取り組んでおり、譲渡会はその活動の一環。この活動によって野良猫が減少するなど、成果を上げている。

こうした行政と連携したイベントも多く、2015年の10月には犬・猫の譲渡会を札幌市動物管理センターで開催。これは殺処分を減らそうと道と札幌市が連携する初の試み。また、道と共催の譲渡会、啓蒙イベントである「北海道わんにゃんレスキュー命のわ@赤れんが」では初めて北海道庁赤れんが前で開催した（環境省の平成28年度のモデル事業展開「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」）。また、2017年1月には道、札幌市、認定NPO法人HOKKAIDOしっぽの会と共に協働譲渡イベント「わんにゃん家族プロジェクト」を札幌市西区の農試公園ツインキャップ（アリーナ）で実施した。これは保健所の犬猫をメインにした譲渡会で、どうぶつ紙芝居や動物愛護クイズラリーなども行った。

企業とも連携しており、「ハンディのある犬猫のわんにゃん譲渡会」ではジョイフルエーカー屯田店から開催場所や機材の提供があった。2015年には、滝川のライオンズクラブからの依頼によって譲渡会も開催している。



ジョイフルエーカー屯田店での譲渡会

こうしたイベントは年に10回ほど開催しており、メンバーで集まるのは3ヵ月に1回。「個々の団体はまだ自分たちの活動だけで精一杯。それぞれの団体の考え方には違いもあるので、それをすり合わせるのが難しいですね。今後はもっと結束力を高めていきたい」と吉井さん。

今後はNPO法人か、社団法人にして道内の各振興局や保健所と連携し、団体名の通り全道でイベントを実施していきたいという。

■ 人の側に立った活動を

吉井さんは十勝出身で、美容学校を卒業後、札幌市内で美容室やエステ店などを経営してきたが、その手腕をかわれ、仕事一途の生活を送った。「満足感はある程度の目標を達成したら終わってしまう。経営は努力した対価が貰えてもそれで終わり。それ以上でもそれ以下でもない。私自身の限界も見えていました」と吉井さんは振り返る。そんな中、40代で若年性の更年期に突入、うつ状態に陥り「私はこのまま終わっていくのだろうか、誰にも必要とされていないのだろうか」と不安が増すばかりでした。そんなことを思い続けていたところに猫がいたわけです。

もともと猫にそう愛着がなかった吉井さんだが、結婚相手が猫を飼っていたことや、美容室のお客さんから野良猫の相談を受け、里親探しをするなど自然と猫に接する機会が増え、2010年に美容師を引退すると、1人で猫の保護活動を始めた。その後、20匹ほどの猫を飼っていた高齢女性が行方不明となり、残された猫たちのレスキューきっかけに、2012年5月から、「NPO法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道」として活動をスタート。以後、吉井さんの活動やブログ、フェイスブックなどでの発信を通じて、共感する全国や海外の人たちが

カフェを訪れたり、エサなどの支援物資を届けたりしてくれるようになった。中には施設の提供を申し出る支援者までいるという。



札幌駅前通地下広場でのイベントは多くの人が集まった

「ありえないほどの支援をいただき、色々な方との繋がりもできた。美容室を営んでいた時には得られなかったミッションを達成させる喜びやそれを一緒に共有できる喜びを感じるようになりました。NPOの活動は私に今まで感じたことのない感情を呼び覚ますのです」と吉井さん。

これまで様々な案件を解決してきたが吉

井さんが「頭から離れない衝撃を受けた」と振り返ったのが、高齢男性が1人で暮らすエレベーター付き3階建ての豪邸でのこと。そこには半野良化した猫たちが空き缶やごみ、糞尿が入り混じった部屋に放置されていた。異臭と共にクモやハエも大量発生。足の踏み場もないほどのごみ屋敷だったという。札幌市動物管理センターや家族から相談を受けた吉井さんは、スタッフやSNSで呼びかけたボランティアと共に必死の思いで清掃、高齢の飼い主からの「出ていけ」と怒号が飛ぶ中、なんとか保護場所が確保でき、50匹ほどの猫を救出できた。その猫たちは飼育管理を経て8割が譲渡された。孤立していた高齢男性は家族の支えもあって介護施設に入居することができ、穏やかな生活が送れるようになった。

「こうした案件を解決することによって、壊れかけていた家庭が1つにまとまったり、社会復帰して普通の生活を取り戻したりしてくれたら嬉しい。私の活動は独居老人や孤独死といった社会問題と向き合うことでもあります。猫や犬を助けて終わりではないのです。人の側に立った活動そのものなのです。人を助けて、猫が助かれればもっと嬉しいですね」と吉井さんは力強く語る。

人へ寄り添った活動はこれからも輝きを

増し、さらに広がっていきましょう。

■ 連絡先

〒060-0006
札幌市中央区北6条西27丁目1-18
ツキネコカフェ2階
NPO法人 猫と人を繋ぐツキネコ北海道
代表 吉井 美穂子（よしい みほこ）

TEL：011-641-8505
Email：mail@tsukineko.net

北海Dobutsu net. URL
<http://www.hokkaidobutsunet.com/>

ツキネコ北海道 URL
<http://tsukineko.net/>